

メニ却テ家人ヲ損フ事出來ル物也、是主タル者ノ心得ベキ事也、珍器奇物ハ有テモ無テモ事欠ズ、家人ハ吾四肢也、一日モ無クテハ成ラヌ者也、天下國家ヲ治ルモ家人有ル故也ト語ラレシト、其近習ノ士話サレシト也、

〔玉露叢〕^十寛永十二年正月廿八日ニ、二ノ丸ニ於テ、將軍家光公へ仙臺ノ政宗、御膳ヲ上ラル、其時

ノ覺書、朝ハ御數寄屋ニテ、^{○中}略

小皿
一御香物^{○下}略

〔西鶴名殘之友〕^二昔たづねて小皿

此男宗鑑庵の木の葉の中より、瀬戸焼の小皿一枚拾ひあげて、是は宗鑑お内儀、白粉とくに疑ひなしといふ、是は汝一代の見立と、大笑ひの種なり、

〔厨事類記〕^上書御膳^{裏書}

今案、^{○中}略 朱漆瓷雜器者、盛御菜料器也、近代用土器、又以朱漆盤^丸也、^{○盤}七枚運送供御也、

〔玉露叢〕^十寛永十二年正月廿八日ニ、二ノ丸ニ於テ、將軍家光公へ仙臺ノ政宗、御膳ヲ上ラル、其時

ノ覺書、朝ハ御數寄屋ニテ、^{○中}略

一御燒物 石がれい 御食

〔槐記〕享保十一年霜月七日、大徳寺弧峯庵へ御成、^{○中}略 皿^{○セトノ}四[○] 十四年三月四日、道正庵御

茶獻上、^{○中}略 四角皿^{○キスゴ細作り、}青酢ナマス、

〔我衣〕赤繪の香合、染付の厚手の角皿、酒呑猪口、火入のるいに、にせもの驚く計見事成る品、専ら下りて、中以下の目利は、皆誠の物也と心得たり、

〔延喜式〕^{三十二}大膳[○]國栖笛工

麻筒盤三口